

令和5年度 中野区立中野第一小学校 学校経営計画

学校教育目標	心身ともに健康で知性と感性に富み、自分も人も大切に作る豊かな人間性を持ち、時代と社会の変化に主体的に対応してたくましく生き、社会に貢献できる児童を地域・保護者と連携して育てる。 考える子 思いやりのある子 元気な子		
目指す子ども (幼児・児童・生徒)像	1 自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心と態度を身に付け実践する子 2 基礎的・基本的な学力を確実に身に付け、習得した知識・技能を活用できる子 3 運動に親しむとともに、健康・安全・防災に関する必要な知識等を習得し、健康で活力ある生活を営む子	目指す学校 (教師像を含む)	児童に 保護者に 地域に 教職員に 喜びを生み出す学校 子供を中心として学校・家庭・地域がつながり それぞれのもてる力を発揮し、 地域そのものが一つの学校として教育に当たり、 愛され誇りにされ喜びを生み出す学校をつくり、 児童のよりよい成長を促す適切な支援を充実させた教育を実現する。 わたしっていいね! I'm OK! あなたもいいね! You are OK!
教育目標を達成するための基本方針	<p>(1) 豊かな人間性の育成 「中野区子どもの権利に関する条例」の理念の下、人権尊重の精神を基盤とし、全教育活動を通して生命や人権等を尊重する態度や規範意識を育むとともに自尊感情や自己肯定感、自己有用感を高める。学年や異学年での交流、地域の人材を活用した教育活動や交流活動、そして、児童が「子どもの権利」について知り、意見や考え、思いを表明することができる取組を推進する等を通して、道徳性や豊かな人間性、人間関係形成力を培うとともに、地域で学ぶ児童への一貫した成長支援・育成に取り組む。また、保護者や関係機関、スクールカウンセラー等との連携を密にしながら児童が安心して過ごせる環境を整備するとともに、学校いじめ防止基本方針に則り、全教職員で年間を通して継続的にいじめ未然防止等に全力で取り組む。</p> <p>(2) 学力の向上 児童の実態に基づいて指導方法を工夫改善した授業と評価規準・評価計画による適正な評価・評定を実施し、個に応じた指導や補充学習、少人数・習熟度別指導等を通して基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、言語活動や課題解決学習、体験的な学習の一層の充実により思考力・判断力・表現力等を育成し活用する力を身に付けさせる。また、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進するとともに、学びを人生や社会に生かそうとする姿勢や態度を身に付け、持続可能な社会の担い手としての資質や能力を育成する。また、外国語によるコミュニケーション能力の向上を目指すとともに多文化共生社会を生きる国際感覚を育む。</p> <p>(3) 体力の向上と健康の保持増進 年間を通して体育の授業改善や体を動かす運動や運動遊びに取り組み、日常的に運動に親しむ資質を育成して体力・運動能力の向上を図る。食育や防災教育の推進、交通・安全指導の徹底により必要な知識等を習得させ、心と体の健康づくりに主体的に取り組む態度や健康で活力ある生活を営む実践力を育てる。また、特別支援教育に関する研鑽を深めるとともに校内支援委員会の活動を一層活性化させ、関係機関等との連携を取りながら、個に応じた指導ときめ細やかな支援による児童の心身の健やかな成長を図る。</p> <p>(4) 保護者・地域との連携・協働 土曜授業公開の実施、学校だよりやホームページ等をおとして、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を保護者や地域と共有・連携し、社会に開かれた教育課程の確立と地域社会と共に教育を推進する学校の構築を推進する。また、保幼小中の連携を生かして生きる力を更に伸ばし育ていく。近隣の保育園・幼稚園や小中連携3校が同じ方向性をもって取組み、教科指導や生活指導等において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導の工夫を行い、一貫性のある継続的な指導を行うなどカリキュラム・マネジメントに努める。</p>		

A 重点目標		B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	
1	【知(確かな学力)】保幼との円滑な接続と小中9年間の学習の系統性を踏まえ、小学校における基礎的・基本的な学力の定着と知識・技能を活用する力を身に付ける。	【学習方法の改革】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。学習したことがよくわかり楽しく学習している児童を90%以上とする。
2	【徳(豊かな人間性)】自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心と態度、実践する力を身に付ける。	【自己評価を育て高める】 自信のあるところとないところを含め、自分自身にだいたい満足している児童にする。自分と友達を大切にすることを育てる。	自信のあるところとないところを含め、自分自身にだいたい満足している児童を80%以上とする。 自分を大切にしている児童を90%以上、友達を大切にしている児童を95%以上とする。
		【他者と関わる価値を高める】 人と関わること・(遊び・学習・生活)が楽しいと感じる心を育てる。	人と関わること・(遊び・学習・生活)が楽しいと感じる児童を90%以上とする。
3	【体(健康・体力)】運動に親しむとともに健康・安全・防災に関する必要な知識等を習得し、健康で活力ある生活を営む力を身に付ける。	【身体の健康】 運動に親しむ資質を育成し体力・運動能力を向上させる。	体を動かして遊んだり運動したりすることは楽しい児童を90%以上とする。
		【心の健康】 心身の関係について理解し、楽しく明るい生活を営む態度を身に付ける。	健康に気を付けて、元気に生活している児童を95%以上とする。
		【安全な生活】 安全について理解し、自ら安全に行動する力を身に付ける。	安全に気を付けて生活している児童を95%以上、困ったことや悩みがあったらだれかに話したり相談したりできる児童を80%以上とする。
4	【学校における働き方改革】教職員の心身の健康保持を図り、心身共に充実して働き続けられる働き方を実現する。	教職員の働き方に係る意識改革を推進し、働き方の改善に具体的に取組む。	ライフ・ワーク・バランスを推進する。
5	【保幼小中連携】保育園・幼稚園から小学校、小学校から中学校への円滑な接続を図り、連携を生かして生きる力(豊かな心・学力・体力)を更に伸ばし育てる。	教科指導や生活指導等において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導の工夫を行い、一貫性のある継続的な指導を行う。	心の教育を重点とし、二中校区の学校・家庭・地域で育てたい児童・生徒像を共有し、道徳教育を中心として取り組む。

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果		考察	改善策				
			評価	取組に関する指標	中間評価	評価			成果指標	中間評価		
1 知(確かな学力)	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。学習したことがよくわかり楽しく学習している児童を90%以上とする。	一人一台タブレットと学習アプリMonoxerの活用による授業改善・授業改革の研究に取組む。学習におけるICT機器・学習アプリの活用、学習状況の把握と適切な指導・支援を行う。	A	思考、話し、活用の学習時間を増加した	12	A	児童の肯定的評価90%以上	B	全校87.8%で、とてもは半数以上の56.9%、だいたい30.9%である。ぜんぜんは3.4%の24人で、1年生が6人と最多である。2年生は1人で最少。	評価が二極化している傾向があり、個に応じた目標と指導の在り方を学年で考察・精査し、支援員と共に当たる指導を一層効果的なものとする。	●全体指導の後、個々への声掛けを増やす。 ●ねらいに対する振り返りの時間を十分に確保し、できるようになったことを実感できるようにする。 ●児童が自主的に考え、議論する経験を増やす。 ●学習に対する低い肯定感を高めるため、学習を振り返り、成長を実感できるようにする。	
			B	学習アプリを効果的に活用した	18	B	児童の肯定的評価85%以上					
			C	ICT機器を効果的に活用した	18	C	児童の肯定的評価80%以上					
			D	十分な取組ができなかった	1	D	児童の肯定的評価75%以上					
2 徳(豊かな人間性)	自信のあるところないところを含め、自分自身にだいたい満足している児童を80%以上とする。	良さに【気付く・見付ける・感じる】そして【伝える・認める・褒める】に年間をとおして取組み、児童の自己評価を育て高める。	A	保護者と連携し取組んだ	13	A	B+6年生70%以上	A	全校83.5%。低学年88.0%、中学年87.6%だが、5年生74.8%、6年生70.0%であった。高学年が急減している。	経年で見ると5年生は4.7%増、6年生は7.7%減である。6年生への評価のフィードバックが必要であり、全教職員で取組む。	●ほめる回数を増やすとともに、失敗しても大丈夫という学級の雰囲気づくりを行う。 ●自分のよさを発見できるように、グループエンカウンターやSSTを以て一層活用する。 ●行事の振り返り等、自分の成長を肯定的に言語化できない児童に友達からの評価を伝える。 ●SSTやグループエンカウンターを活用を学年で計画し、月2~4回の継続して取組む。 ●自分を大切にすることについて、教員がその視点を持ち、意識を高めて教育活動に当たる。 ●友達とのかかわりについて学ぶ機会を授業の中に多く取り入れる	
			B	学級だよりを活用して取組んだ	4	B	児童の肯定的評価80%以上					
			C	日常の指導に取り入れた	24	C	児童の肯定的評価75%以上					
			D	十分な取組ができなかった	1	D	児童の肯定的評価70%以上					
	自分を大切にしている児童を90%以上、友達を大切にしている児童を95%以上とする。	相手の考えを汲み取る力、コミュニケーション能力の育成・向上のための取組を行う。(ソーシャルスキル・トレーニング、グループエンカウンター、ピアサポート等)	A	日常の授業や活動に取り入れて実施した	11	A	自分90%以上、友達95%以上	B	自分全校89.1%、低93.4%、中90.4%、高82.0%(5年生86.1%、6年生77.0%) 友達全校97.6%	6年生の評価が低い。自己の良さに気付き、自己を大切にすることの大切さについて重点的に指導する。	●ひまわり学級との定期的な交流を通して、他者との理解を深める。 ●特別活動を充実させ、他者との関わる機会を増やしていく。 ●人と関わることを楽しいと感じない児童の特性を把握、考察するPTを作り、解決策を探る。	
			B	取組を2か月に3回以上行った	2	B	自分85%以上、友達90%以上					
			C	取組を1か月に1回以上行った	8	C	自分80%以上、友達90%以上					
			D	十分な取組ができなかった	9	D	自分80%以上、友達85%以上					
	人と関わること・(遊び・学習・生活)が楽しいと感じる児童を90%以上とする。	縦割り班活動、学年合同授業、異学年交流学習の実施。ひまわり学級との交流(児童の交流と、教員のひまわり学級への授業参加・参観)	A	縦割り班・異学年交流に取組んだ	24	A	児童の肯定的評価90%以上	C	異学年交流88.8%、ひまわり学級81.4% ひまわり学級との交流を実施していない3,5,6年生の評価が低い。	縦割り班活動の活性化、かかわりを重視した内容の工夫を図る。後期のひまわり学級と通常級との交流を充実させる。	●ひまわり学級との定期的な交流を通して、他者との理解を深める。 ●特別活動を充実させ、他者との関わる機会を増やしていく。 ●人と関わることを楽しいと感じない児童の特性を把握、考察するPTを作り、解決策を探る。	
			B	ひまわり学級交流(児童・教員)に取組んだ	12	B	児童の肯定的評価85%以上					
			C	学年交流に取組んだ	12	C	児童の肯定的評価80%以上					
			D	十分な取組ができなかった	3	D	児童の肯定的評価75%以上					
3 体(健康・体力)	安全に気を付けて生活している児童を95%以上、困ったことや悩みがあったらだれかに話することができる児童を80%以上とする。	安全教育プログラムを活用し、生活安全、交通安全、災害安全のすべてについて継続的に指導する。	A	状況に対応した指導を適切に実施した	21	A	安全に気を付けて95%以上話することができる80%以上	C	安全全校94.0%、低95.0%、中95.6%、高90.7% 話す全校73.0%(1年80.1%、2年74.2%、3年68.5%、4年73.2%、5年67.5%、6年73.0%) 3年生と5年生が低くなっている。 担任に対してより数値が低くなっている。	学年編成を実施した3,5年生について、学級内での人間関係の構築を図ること、心理的安全性を高めるため、グループエンカウンターを月1回実施する。SOSの出し方について、もし困ったことや悩みがあったらだれに話すかを考える取組を実施する。	●教室、廊下を走ってしまう特定の児童の安全・生活指導を引き続き行う。 ●自主学習など、教員に提出するものに、相談などを書いてよいことにする。 ●相談できる場所はたくさんあることが、常々分かるよう掲示を工夫する。 ●巡回指導と連携し安全指導をさらに充実させる。 ●SC等と連携し、自分を出しにくい児童に対しての指導を工夫する。	
			B	必ず指導する基本的事項を指導した	13							
			C	3つの安全領域を理解して指導した	8							
			D	十分な指導ができなかった	0							
	体を動かして遊んだり運動したりすることは楽しい児童を90%以上とする。	休み時間の外遊びの奨励と体育館の開放、体力向上月間(6月、10月、2月)の実施。楽しさを実感させる工夫や声掛けに取組む。	A	自分に相談してもらえるよう工夫した	14	A	安全に気を付けて90%以上話することができる65%以上	A	全校91.7%、とても76.3%、否定的評価ぜんぜん2.9%21人、あまり5.3%38人が固定化しない手立が必要である。	生涯にわたって運動に親しむ資質を育成するため、運動の価値を理解させることや、見る楽しみ、支える楽しみを味わわせる。	●遊び(運動)の幅を広げるため、運動委員会の紹介等により遊びのレポーターを増やす。 ●クラス遊び等、休み時間の外遊びで一緒に遊ぶことで、体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。 ●体育学習時に、楽しい運動の紹介・指導する。	
			B	重点時期の他にも指導した	13							
			C	具体的なSOSの出し方を指導した	15							
			D	適切に指導できなかった	1							
	健康に気を付けて、元気に生活している児童を95%以上とする。	心と体の関係についての体験的学習の充実(保健・心と体)。スクールカウンセラー・心の教室相談員との連携、生活指導の情報共有と全教職員の統一した支援。	A	SC等と連携して支援した	20	A	安全に気を付けて90%未満話することができる65%未満	B	全校93.3%、低93.0%、中96.6%、高89.3%(5年生91.3%、6年生86.7%)	体ほぐしの運動による、運動の心地よさ、心と体への気付き、交流のよさを実感させる。	●保健の学習内容を家庭と共有し、実生活の改善、特に睡眠時間の短さの改善につなげる。 ●体ほぐしの運動の授業研究を行う。 ●保護者とSCを適切につなぐ。また、児童自身がカウンセリングを受ける機会を設定する。	
			B	心と体の関係について指導した	15							
			C	ねらいに沿った体ほぐしの運動を実施した	9							
			D	体験的学習ができなかった	1							
4 働き方	ライフ・ワーク・バランスを推進する。	時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間とする。男性職員の育業等取得を促進する。定時退庁日を設定する。	A	前月の結果を次月に生かした	7	A	年360時間以下の教職員が90%	C	36人中13人が年間360時間を超えるペースである。7人が10月末時点で360時間以上となる。	取組が二極化しており、対応が必要な教員に対しての指導・支援・働きかけを強化する。	●優先順位を決め、早めの退勤につなげる。 ●時間を決めて取り組み、一つ一つ作業を充実させる。 ●事前に行事の予定や期日を確認し、見直しをもって行動する。	
			B	早く退勤する日を決めて勤務した	16							
			C	定時退庁日におおよそ取組めた	9							
			D	十分な取組ができなかった	5							
5 保幼小中連携	教科・生活指導等において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導の工夫を行い、一貫性のある継続的な指導を行う。	心の教育を重点とし、二中校区の学校・家庭・地域で育てたい児童・生徒像を共有し、道徳教育を中心として取組む。	A	発達段階や学びの連続性を踏まえた指導の工夫に取組んだ	11	A	校区の願に応じた道徳授業の改善ができた	1	二中校区として、育てたい児童・生徒像を共有した。	学校・家庭・地域が望む道徳の価値項目を把握し、二中校区としての重点を定め、小学校間での共有と実践から始めている。	●3校の管理職の考え、特に小中間での考えのすり合わせが必要である。 ●二中との情報共有を推進する。 ●道徳についてのアンケートを実施する。 ●小中連携の目的やこれまでの取組を確認する。	
			B	道徳授業の改善に取組んだ	15	B	自校の状況に応じた道徳授業の改善ができた					12
			C	校区で育てたい児童像を共有した	8	C	実態に応じた指導計画の改善ができた					11
			D	十分な取組ができなかった	5	D	十分な取組とならなかった					3